

經濟論叢

第十六卷 第二號

労働市場論なき賃金論……………岸本英太郎 1

ブルック・ファーム……………穂積文雄 19

イギリス革命における農業・

土地問題分析の視角……………尾崎芳治 47

社会科学のひとつの立場……………出口勇藏 61

《記事》

昭和三十五年度京都大学経済学会大会における公開講演

および研究報告の要旨…………… 74

昭和三十五年八月

京都大学経済學會

『同一労働同一賃金』の原則に

CSJ

松井 栄一

本報告は産業別組合に組織される合衆国の歴史炭鉱業及び鉄鋼業労働者の経験を資料にして、同一労働同一賃金の原則の理論的根拠を明らかにするべく企てたものである。労働の価格法則とは、社会的標準的労働支出を前提にして、標準をめぐる労働の質的量的差異が、価値生産物の照応的増減を背景に、賃率・賃金格差をもたらすことを、一般に意味する。労働力の価値法則からの労働の価格法則の相対的独自性は、労働者階級の窮乏化に関連して特に明白にあらわれる。

本報告は、简单労働力の価値・市場価値が所与の社会・時代

記事

において略、一定であることを見きわめ、ついでそれぞれの簡單・複雑労働職種の労働力の市場価値の成立と「労働の平均価格」への転化、そこからの産業別標準賃率および会社別・工場別・個人別賃率・賃金格差の発生を描きだしたが、かかる賃金構造の把握は労働力の価値及び労働の価格の理論の具体的展開によつてのみなされうる。右のごとき賃金構造の各段階で、種々の生産・労働諸条件のもとで発生する同一労働同一賃金と差別賃金が分析され、かつ同種・異種労働間の労働評価は同一労働同一賃金の原則と不可分のものとして扱われる。

同一労働同一賃金の原則を、直接労働力の価値・市場価格によつて理論づけようとする試みは、その原則が極めて具体的な賃金構造のなかで唱えられる事実を無視する一の空論であるにすぎない。

(高知大学講師)